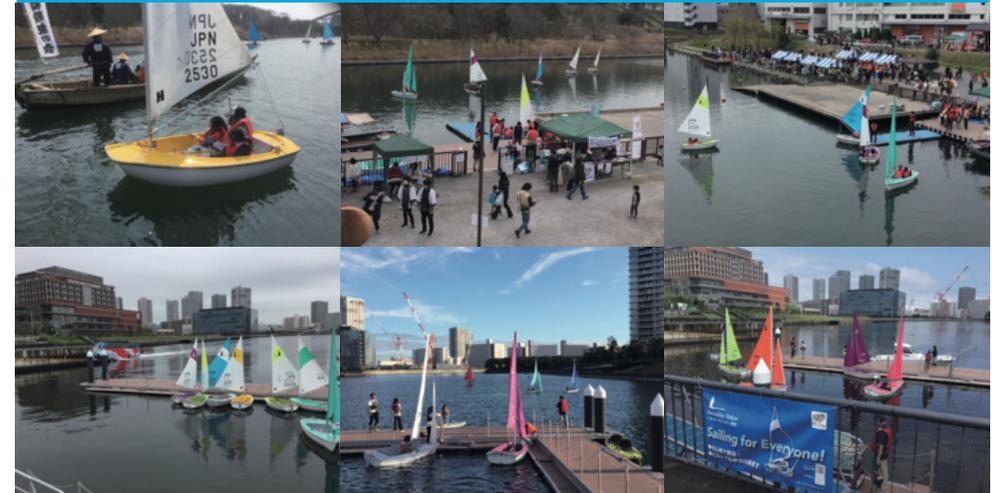




みずべ Mizube

Vol.43



写真上3枚：リバーフェスタ江東（ポートフェス in 旧中川） 写真下3枚：豊洲ぐるり公園乗船場

「みずべ」の歴史（その6 CIG (CITY IN THE GREEN)）

CIG (City in the Green) の呼びかけは、亡くなられた山崎孝明元江東区長が提案され、江東区の水辺に親しむへも協力の依頼がありました。本会でも水辺とともに緑 (Green) も加えた事業内容に定款を改訂しました。

江東区からは「CIG ビジョン推進キャンペーン—ベランダ緑化」を委託事業として2012年度（平成24年度）に受注しました。私達は2004年（平成16年）に本会が行なった内閣府からの委託調査「防災対策を考慮した水と緑のネットワーク再生事業」がここに繋がったと考えています。景観としての水辺の緑が、地域の緑につながり、City in the Green のテーマに水辺の会の活動が連動すると考えてくださったのだと思います。

2012年6月からモニター募集を行ない、この年は区内3か所、合計90人のモニターにプランター、土、花の苗を配り育てていただき、中間報告会を12月に実施しました。翌年度ではベランダ緑化の普及を目指しました。そして3年目の2014年（平成26年）には継続性を考えて、栽培技術のレベルアップ講習、コミュニティ支援、などテーマを増やしてきました。

2018年（平成30年）には、「ベランダガーデニングで都市生活が変わる！」というテーマで講演会も実施し、八木波奈子さんの基調講演、芝浦工業大学の志村先生がコーディネーターで、緑ネット Koto の美濃又さん、ベランダ緑化モニターの川瀬さん、竹中工務店の向山さんのお話を聞くことができ、CIG にとって有益な意見交換をすることができました。

2019年からは豊洲埠頭内の公園指定管理事業者に協力して、乗船場を活用したイベントとして、ハンザの体験乗船会、船カフェ、水彩まつりなどを行ない、CIG の広がりも感じています。（理事 庄司邦昭）



講習会のようす



講演会パネルディスカッション

2025年の活動予定

○水彩サロン 2025

春学期 5月、6月、7月

秋学期、9月、10月、11月開催予定

会場：森下文化センター研修室



2023年3月開催された第1回ポートフェスの前進は「リバーフェスタ江東」です。セイラビリティ東京は風のみで走る環境にやさしいハンザ艇の特徴を生かし10年前2013年に始まった旧中川でのリバーフェスタ江東に連続5年2017年まで参加しました。江東区は Sports & Supports を標榜し屈指の水彩都市でもありオリンピック・パラリンピック2020競技のレガシーも沢山あります。旧中川での第2回ポートフェスの再開と継続を「リバーフェスタ江東」と同様にのぞむところです。

セイラビリティ東京は2017年NPO「江東区の水辺に親しむ会」の姉妹法人として一般社団法人「セイラビリティ東京」法人登記し水辺の豊かな江東区で小学生を対象にした課外活動、「ヨット教室」を開催しています。「ヨット教室」は転覆し難く、沈まないハンザ艇の特徴を活かし健常者、車いす利用者、分け隔てなくインクルーシブセーリングを開催しています。「ヨット教室」の卒業生は過去7年で1,100余人に達しています。セイラビリティ東京は江東区の湾岸エリアでのイベント数は年間22～25回行っています。7年間で約14,000余名が乗船を体験しています。「ヨット教室」では水辺の安全教

育を行っています。コロナ禍、能登半島地震と豪雨等で地域振興と水辺のスポーツ振興活動は遠のいています。自然災害はいつ起こるか分からない。子供たちへの継続した教育が自然災害への対応を高め災害に耐える江東区の地域貢献の一助としたいところです。その意味で水辺のスポーツ振興と地域振興の意味で旧中川のポートフェスの再開と継続を望んでいます。

2013年から2018年まで毎年3月に開催された旧中川での「リバーフェスタ江東」では和船、カヌー、水陸両用バスが共存し、多くの方が体験乗船会に参加されました。リバーフェスタ江東は中断されましたが2023年3月には名称も変更され「ポートフェスタ」と開催された。第2回ポートフェス2025の再開をのぞむところです。

セイラビリティ東京は水辺の多い新市街地、豊洲、有明の海面でスポーツを継続したいと考えます。

Sports & Supports

一般社団法人 セイラビリティ東京
代表理事 藤原治郎

2024年度活動報告

1 指定管理事業

2023年度より始まった指定管理事業も2年目を迎え、本会の経験を生かして、環境や防災などをテーマとした4回のイベントを実施し、公園緑地の整備のためのガーデンクラブの運営、にぎわい施設の運営などを、他の事業者と共同で実施しました。

2 CIG 事業

江東区から委託を受けて実施しているCIG（City in the Green）事業は前年度に引き続き、例年通り、キャンペーン活動での告知活動、講習会、交流会などを実施し、その活動状況はニュースレターとして広く周知しました。



CIG ニュースレター

3 水彩サロン 2024 年春学期秋学期

春学期3回、秋学期3回の計6回、森下文化センターと協力して実施しました。実行委員の努力により毎回30名以上の方に参加していただきました。

春学期

- 第1回 5月19日（日）14時～16時「100年造船所のはなし」、石渡秀雄氏（墨田川造船代表取締役）
- 第2回 6月16日（日）14時～16時「渋沢栄一と深川福住邸」、桑原功一氏（渋沢史料館館長）
- 第3回 7月28日（日）14時～16時「生きる知恵」對馬博子氏（防災士）

秋学期

- 第1回 9月8日（日）14時～16時「江戸・江東区の橋ものがたり」、酒井茂之氏（江戸東京研究家）
- 第2回 10月20日（日）14時～16時「女の旅」、神崎宣武氏（民俗学者）
- 第3回 11月24日（日）14時～16時「庭園学概論」、進士五十八氏（福井県立大学学長）

4 舟運受託事業

江東区観光協会の委託を受けて、渋沢福住邸への舟運ツアーを実施しました。

5 ボートフェス in 旧中川 2025

2025年3月15日（土）に旧中川・川の駅にぎわい施設周辺でボートフェス in 旧中川 2025 を実施した。

6 夜の水彩カフェテラス

2024年5月11日（土）に旧中川・川の駅周辺で実施しました。

7 その他の事業

- 2024年3月24日（土）～4月7日（日）第20回お江戸深川さくらまつり
- 2024年7月15日（月・祝）明治丸シンポジウム
- 2024年10月14日（月・祝）深川っ子運動会
- 2025年2月22日（土）川の日ワークショップ関東大会（前橋）



2024年6月水彩サロン



ボートフェス in 旧中川 2025



深川っ子運動会

洲崎神社（江戸時代は洲崎弁天）が創設されたのは元禄13年（1700）のことで、当時この場所は海に面し、富士山・房総・筑波山が見渡せる眺望と潮干狩りで大変人気のスポットでした。



洲崎海岸の図（その1）：江戸名所図会より。海上から見た洲崎弁天。奥に大横川は見えるが弁天橋は見えない。左端に波除碑が見える。

洲崎弁天は今でも同じ場所にありますが、かつての絶景の地は今では内陸の目立たない場所になってしまいました。ここに波除碑（なみよけひ）と言うものがあります。寛政3年（1791）の台風による水害で大きな被害が発生し、しばらく海岸沿い約500m、洲崎神社から西の「平久橋」までの区域に住んではいけない、と記されていました。



洲崎海岸の図（その2）：洲崎弁天の祠 広重 手前の堤防は寛政の海難から50年以上経て高く盛られているのがわかる。

弁天橋がいつ創架されたのでしょうか。大横川の南支川が造られてからとなります。なかなか今の状況から想像しにくいですが、江戸時代ではなく、明治初年です。平久橋も明治初年にはありませんでした。

では付近を散歩してみましょう。永代通りと並行して東西に通っているのが大横川です。東西線木場駅を降りると、「平木橋」を渡ってすぐ左に川沿いに行くと、「日田橋」を過ぎてすぐ洲崎弁天が見えます。洲崎弁天を過ぎると「弁天橋」。「弁天橋」は大横川ではなく大横川から南に分岐する南支川にかかっています。



幕末から明治までの弁天橋附近関係位置図（その3）

映画「洲崎パラダイス」（1954）では、「弁天橋」の周辺は大変開けた空間でしたが、今では北側の大横川沿いにはビルが建っていて橋の側面が見えません。南側には背の高い水管橋がありさらに雑草が絡まり見通しが全く効きません。景観への配慮ということはないのでしょうか。



「弁天橋」は震災復興橋梁の何の変哲もないプレートガーダーですが、いまとなっては大変懐かしい感じの橋です。車歩道の区別が簡単な縁石です。補強材が衝突で曲がっているのと、リベットが数本飛んでいるのが気になります。現在の橋は昭和7年（1932）に架けられた長さ23.2m、幅10.1m。橋脚は無く、桁下AP2.8mと大変水面からの余裕の少ない橋です。

現在の「弁天橋」（その4）：向こう側が洲崎弁天。左が南側の「お化け屋敷風」の水管橋、右が大横川

・現地情報など

最寄り駅：地下鉄東西線 木場駅歩5分。昭和7年（1932）建設。

一つづつ